

## 折々の記 No194 : 奥が深い！

(H24/6/5 記)

市民農園での野菜作りも2年目に差し掛かっている。8株のブロッコリーを逐次に収穫したが、流石に柔らかくて美味であった。頂花蕾が子供の掌大になったので収穫し、今は小さな脇目（側花蕾）が大きくなるのを楽しみにしている。

虫も大して付かず、病気にもならず、手間暇要らずの栽培であった。また、キャベツも同様である。野菜作りとはこのようなものなのだと思いますが、然に非ず、



奥が深いようだ。

近くのベテランの（本人はそうとは言っていないが、少なくとも小生よりは年季が入っていると見える。）の方にすれば、黙ってはおれないということだろうか？色々と教えて呉れる。

茄子、キュウリ、トマト、苺の育て方についての蘊蓄を教えて貰った。

その諸々は以下の通り。

- ①茄子が元気がないのは肥料負けではないか？
- ②トマトは、通常は一本建てにして栄養を集中させた方が良い。追肥と水は控えめにした方が良い。
- ③茄子の一番花のついた枝から下3枝を残して枝を切り落とすべし。一番果も小さいうちに摘み取って、高く伸ばすように着意する。
- ④キュウリ  
はじめの5～6節の下の方の小ヅル（脇芽）はすべて摘み取る。  
小ヅル（脇芽としてでてきた側枝）を2、3本伸ばす。  
残りの小ヅル（側枝）と、小ヅルからでてきた孫ヅルは、1、2果つけたら雌花の上の葉2枚を残して摘心する。  
キュウリはとっても水をたくさん吸収し、肥料食いであるので要注意。  
雌花と雄花があって、実は雌花にできる。雌花ばかりもあれば交互にあるものもある。
- ⑤芽欠きはこうやった方がいい。或いは摘心はという具合に・・・  
覚えるのも大変だ。一応教わった通りに野菜を整枝した。確かにすっきりはしたが、野菜作りは奥が深いというべきか、或いはそこまでやらずともと思うべきか悩むところだ。  
子供も手を掛ければ掛けるほど良い子になるのだろうが、放任主義の子も立派に育つではないか？ネットで色々ノウハウが普及しているのだろう。皆さん良くご承知だ。

